

概要版

男女共同参画社会 実現に向けての 市民意識調査結果

奈良県 橿原市



1 調査の目的

本調査は、橿原市にお住まいの20歳以上の市民3,000人を対象に、すべての人の人権が尊重され、その個性と能力を発揮できる心豊かなまちづくりを目指し、男女共同参画の新しい取組に向け、「橿原市男女共同参画行動計画」を策定するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査期間

平成18年9月1日
～9月15日

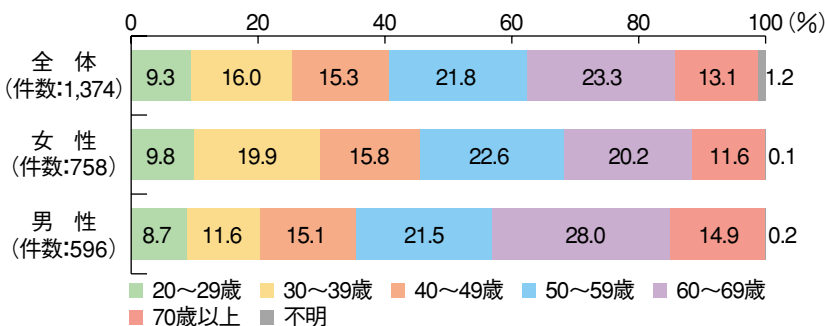
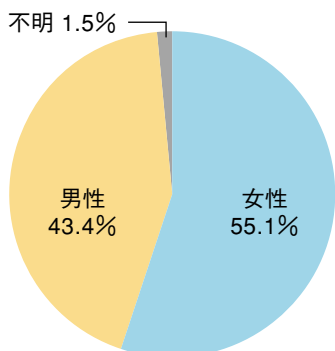
3 回収結果

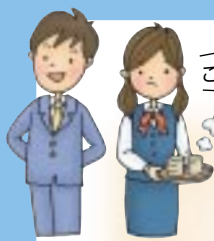
区分	配布数	回収数	回収率
総数	3,000	1,374	45.8%
女性	1,500	758	50.5%
男性	1,500	596	39.7%
性別無回答	—	20	0.7%

4 回答者の属性

回答者は、「女性」が55.1%、「男性」が43.4%となっています。年齢構成については、「50～59歳」「60～69歳」の回答が2割を超えて高くなっており、50歳以上が約6割を占め、比較的年齢の高い層の回答がやや多い状況となっています。

■サンプル数：1,374





これって女性の仕事？

日々の暮らしの中で、「男らしさ」「女らしさ」を当然のように求められ、息苦しさや違和感を感じたことはありませんか？

男だから、女だからというだけで選択肢が限られてしまったり、その能力や個性が認められないような状況があるとしたら、それらを見直し、だれもが自分自身の意思であらゆる社会活動を自由に選択できる社会をつくっていくことが大切です。

今回実施した調査結果をみても、依然として性別役割分担意識が残っていることがうかがえます。この機会に男女が自立してともに支え合う豊かな生活を営めるよう、みんなで考えてみましょう！

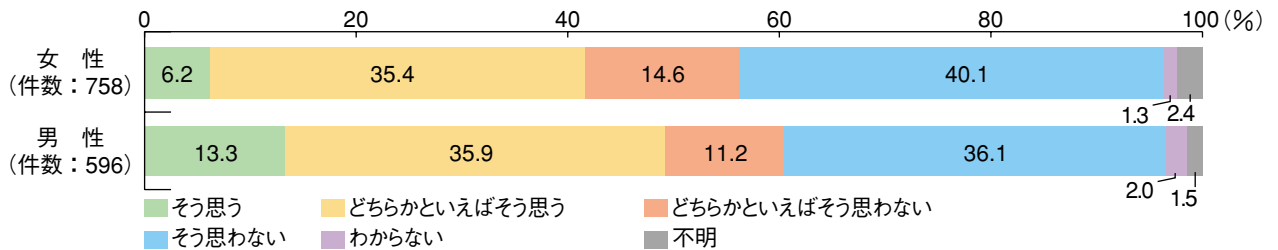
5 男女平等について

いっしょに子育てを楽しもう!!



【「男は仕事、女は家庭」という考え方】

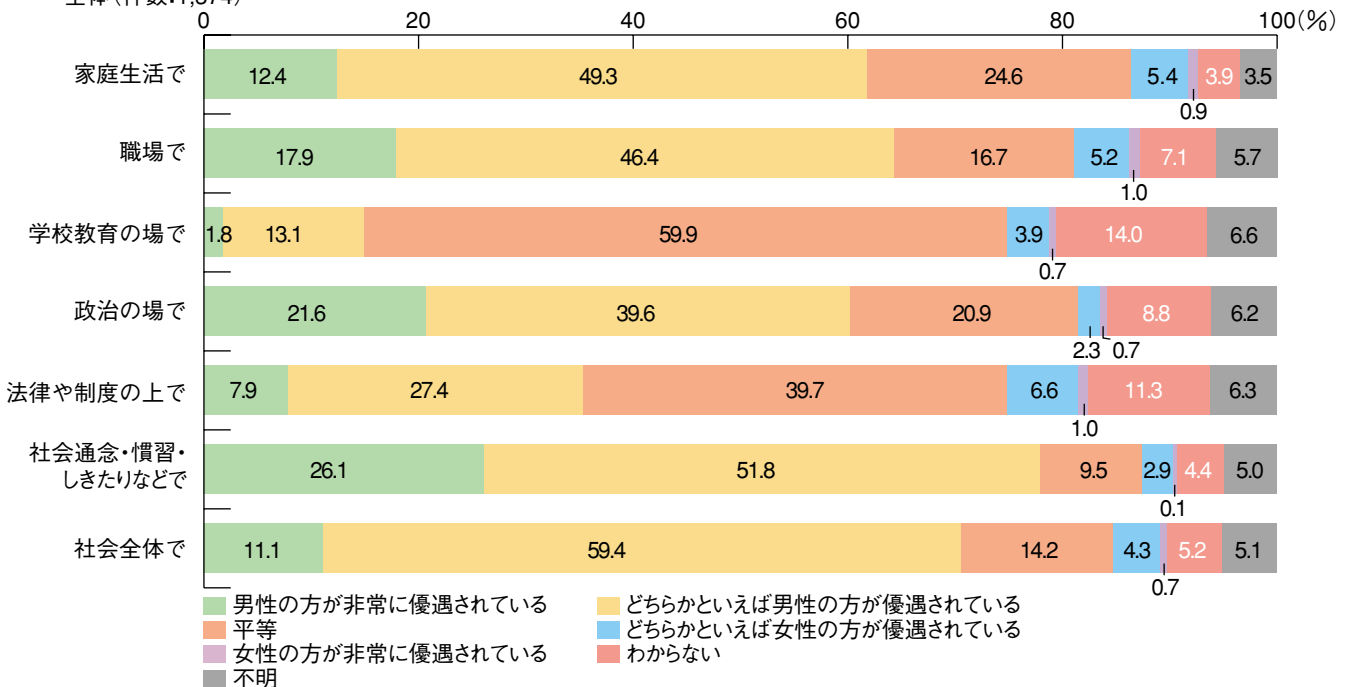
「男は仕事、女は家庭」について女性は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の『反対』が54.7%で高くなっているのに対して、男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する『賛成』が49.2%で高くなっています。



【各分野における男女平等】

各分野における男女の平等については「学校教育の場で」「法律や制度の上で」を除くすべての分野で『男性優遇』の割合が高くなっています。中でも「社会通念・慣習・しきたりなどで」では77.9%と最も高くなっています。

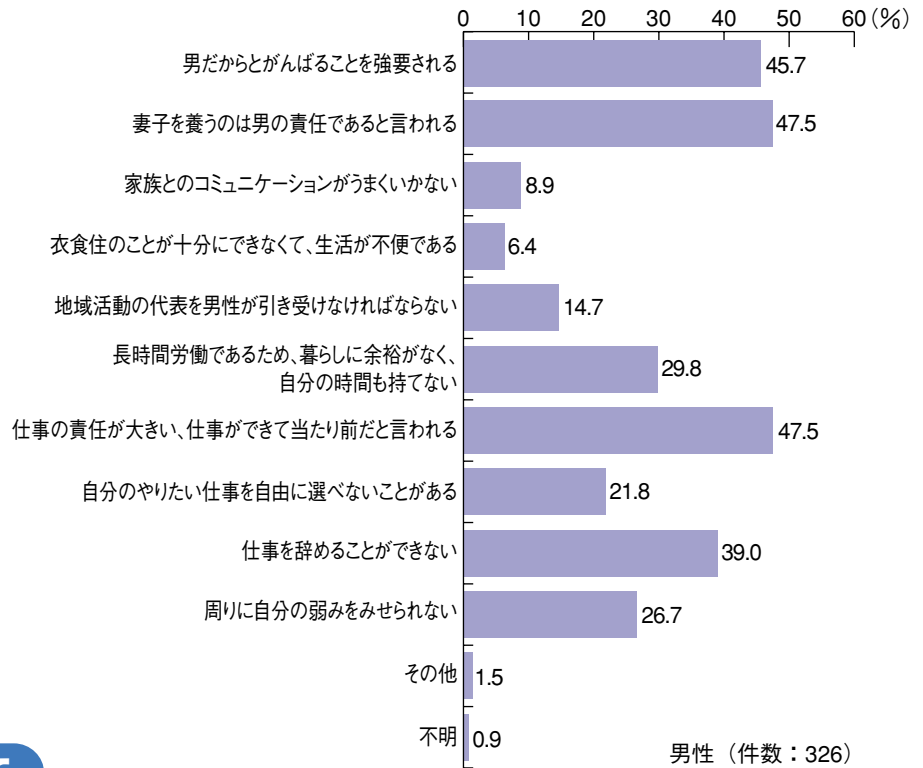
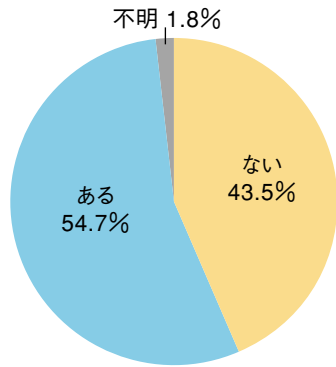
全体(件数:1,374)



【男はつらいと感じること】

「男はつらい」と感じている人の割合は54.7%と半数を超えており、「妻子を養うのは男の責任であると言われる」と「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前だと言われる」（47.5%）が主な内容となっています。

男性（件数：596）

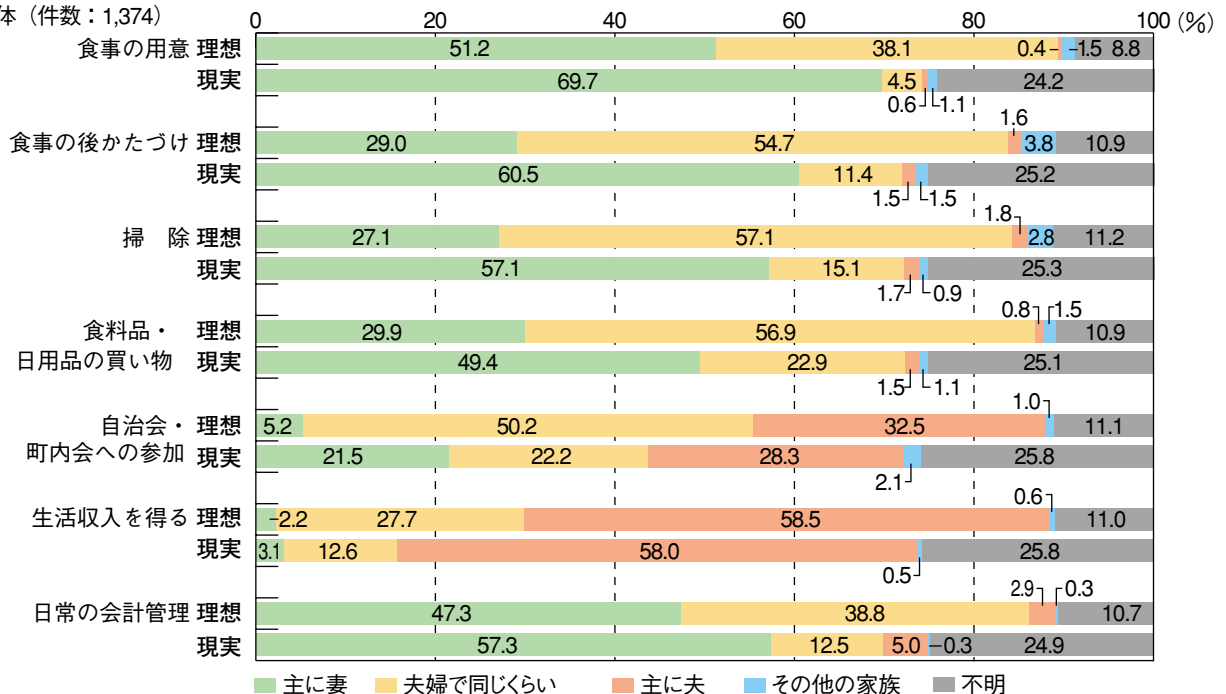


6 家庭生活について

【家庭の役割分担の理想と現実】

「食事の後かたづけ」「掃除」「食料品・日用品の買い物」「自治会・町内会への参加」について理想は「夫婦で同じくらい」が半数以上を占めているのに対して、現実には「主に妻」が担っている状況となっています。「生活収入を得る」については、理想・現実ともに「主に夫」が6割近くを占めて高くなっています。

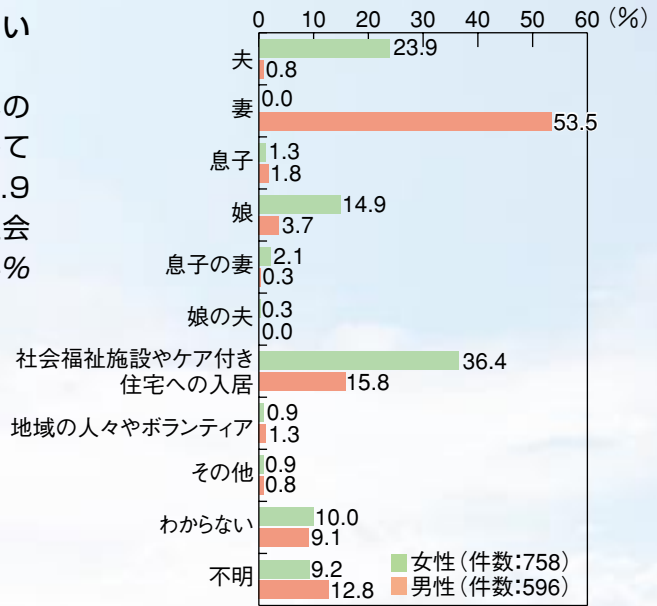
全体（件数：1,374）



7 高齢期の生活について

【介護が必要になった場合に世話をしてほしい人(場所)】

介護が必要になった場合に、男性の「妻」への回答が53.5%と半数以上が女性を頼りにしているのに対して、女性の「夫」への回答は23.9%にとどまっています。女性については、「社会福祉施設やケア付き住宅への入居」が36.4%で最も高くなっています。

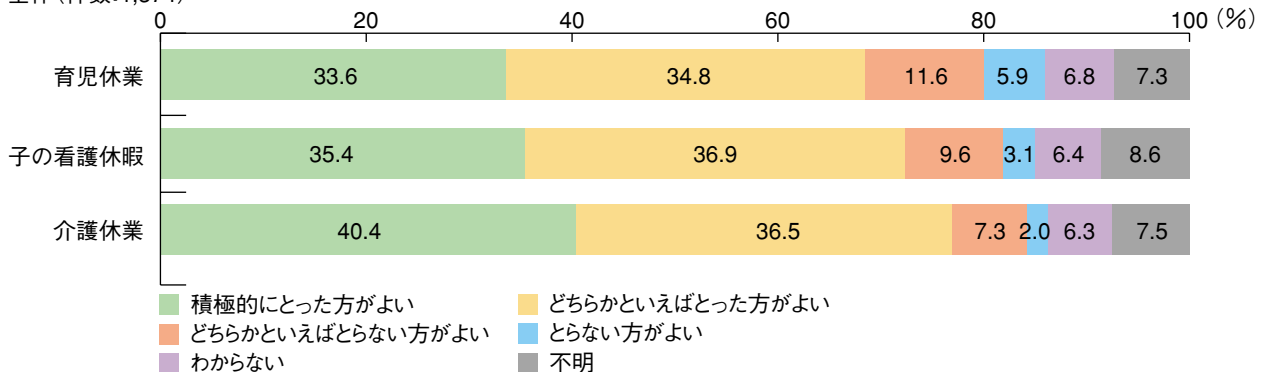


8 就労について

【男性が育児休業・子の看護休暇・介護休業を取得すること】

すべての項目において「積極的にとった方がよい」「どちらかといえばとった方がよい」の取得した方がよいとする回答が7割程度を占めて高く、男性の取得について前向きな意向があることがわかります。

全体(件数:1,374)



橿原市役所 人権施策課 男女共同参画室

〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号
 TEL:0744-22-4001(内線8712) FAX:0744-21-4112
 HPアドレス <http://www.city.kashihara.nara.jp>
 ※調査結果の詳細はHPをご覧ください。